

別記様式(第5条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称		平成30年度第1回総合教育会議
開 催 日 時		平成30年7月17日(火曜) 午前10時15分から 午前11時30分まで
開 催 場 所		福津市役所 別館1階大ホール
委 員 名		(1) 出席委員 原崎市長、柴田教育長、下山委員、青木委員、 藤井委員、半澤委員 (2) 欠席委員 なし
所 管 課 職 員 職 氏 名		松田副市長、大賀総務部長、永島地域振興部長、溝辺教育部長、堀田広報秘書課長、増田教育総務課長、神山学校教育課長、八尋郷育推進課長、花田文化財課長、永松主幹兼指導主事、森指導主事兼教育指導係長、笹田総務企画係長
会 議	議 題 (内 容)	「次世代を見通した地域の将来を担う人材育成」 ①予測困難な社会を生き抜いていくために ②地域を担う人材をどのようにして育成するか
	公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開
	非 公 開 の 理 由	
	傍 聴 者 の 数	1 名
	資 料 の 名 称	
会 議 録 の 作 成 方 針		☐ 録音テープを使用した全文記録
		☒ 録音テープを使用した要点記録
		☐ 要点記録
会 議 録 署 名 委 員		
そ の 他 の 必 要 事 項		
審議内容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)		

1 開会の宣言

堀田：ただいまから平成30年度第1回の福津市総合教育会議を開会いたします。私は、本日の進行を務めます広報秘書課長の堀田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

今日は、傍聴の方も1人お見えになっております。

それでは、お手元にお配りしております会議次第に沿って進めてまいります。

2 挨拶

堀田：まず初めに、原崎市長、御挨拶をお願いいたします。

市長：教育委員の皆様本日はお集まりいただきありがとうございます。平成30年度の第1回会議ということで、教育部のほうも組織、人事の異動がございまして、新たな体制で本日の会議に臨ませていただいております。

私は昨年度、市長に就任いたしまして、昨年7月が自分にとって最初の教育総合会議でございました。その時に、教育大綱の重要項目として3点上げさせていただき、協議を行いました。教育長も4月からまいりましたし、昨年の12月から松田副市長も就任されまして、現在、このような形でこの教育総合会議が運営されております。今日は、「次世代を見通した地域の将来を担う人財育成」を協議事項として話し合いを進めていきます。

昨日は天神大丸のパサージュ広場で、「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群につきまして世界文化遺産登録1周年記念イベントが行われました。大変多くの方に参加いただきました。環境の面では、本市の白石浜海岸で1月に漂着いたしましたウミガメの放流事業も天神と白石浜を結んで中継されるなど、多くメディアのほうでも報じられました。このように、福津市は本当に環境が豊かなまちでございますので、この辺のところもしっかり環境教育の計画のほうにも盛り込んでいただきたいと思います。また、今年の教育委員会の機構改革の中で、郷育推進課に国際交流係をもってまいりました。国際交流の一つの具体的な取り組みとして、オリンピック・パラリンピックのキャンプ誘致等があります。ルーマニアの柔道チームを古賀市と一緒に、早ければ来年の冬から招聘して、子どもたちに国際感覚を身につけさせたいといったねらいもあります。

今日は、この「次世代を見通した地域の将来を担う人財育成」、つまりは、「子ども達が平等に、この世界に羽ばたいていける。そういった人財育成をする。」このようなことを教育委員の皆様に意見交換していただきます。充実した総合教育会議が開催されますことを期待申し上げまして、御挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

堀田：ありがとうございました。

本日の協議日程ですが、会議次第をご覧ください。福津市教育大綱における基本目標より、「次世代を見通した地域の将来を担う人財育成」をテーマに、市長と教育委員の皆様と協議をしていただきたいと思いますと考えております。時間は1時間15分をめに予定しております。会議参加メンバーは、次第及び席次表のとおりでございますので、執行部の自己紹介は省かせていただきます。事務局を含め、市執行部にはお願いですが、最初に発言される際に所属部署とお名前を言ってください。

3 協議 「次世代を見通した地域の将来を担う人財育成」

堀田：これから先の協議事項につきましては、市長の進行でお願いいたします。

市長：わかりました。それでは、協議に入りたいと思います。閉会の時間を11時30分で予定しておりますので、どうぞ御理解、御協力のほう、よろしくお願い申し上げます。

平成27年度から新たに始まった総合教育会議ですが、今年度平成30年度第1回目の会議であります。昨年度までは、福津市総合計画の施策の検証並びに教育大綱の策定について審議を行ってまいりました。昨年の末に策定いたしました教育大綱では、「福津を愛し、人との関わりを大切にして、未来に向けて学び続ける人づくり・まちづくり」を基本理念といたしまして、9つの目標を掲げております。平成29年度の第3回目の会議では、この教育大綱の基本目標より、「国際交流・グローバル人財育成について」と、「環境保全を進めるための人財育成について」をテーマとし協議を行いました。今年度第1回の本日の会議では、「次世代を見通した地域の将来を担う人財育成」をテーマに、もう少し深掘りして協議を行いたいと思っております。予測不可能な厳しい時代を生き抜くため、ローカルの視点、また、グローバルな視点を用い、多様性を身につけ、柔軟な考えや価値観を尊重し、主体的かつ前向きに力強く対応できる人財を育成するためにはどのようなことが必要か。このことについて、①「予測困難な社会を生きていくためにどのようなことが必要か」と、②「地域を担う人材をどのように育成するか」、この2点についての協議、意見交換を行わせていただきたいと思いますと思っております。

それでは、この2点につきまして、意見交換ということで、教育委員の皆様からの御意見をいただきたいと思いますと思っております。委員の皆様、それぞれいかがでございましょうか。

藤井委員、よろしくお願いします。

藤井委員：藤井です。私は、社会を生きていく上で学力はもちろん大切ですが、豊かな心というのがとても大切だと考えています。いろ

いろな人と関わるような、さまざまな体験機会を通して多様な考えがあることを知ったり、相手の立場に立って考えたりすることができるようになりますと思います。私は先日開催された福岡中学校のトークフォークダンスに参加させていただきました。福岡中学校のトークフォークダンスは今年で7回目となるわけですが、今回は初めて実行委員会を生徒自身で立ち上げて、生徒が自分たちで企画運営をして開催されました。これにより、中学生のコミュニケーション力の向上、さらには地域の広がりもでき、こういった企画はとてもいいことだと思いました。今回は教育大生も30人ほど参加されておりました。また、熊本のほうからも参加されている方もいて、いろんな方の意見が聞けてとてもよかったと思います。また、大学生が参加することで、中学生の子どもたちは自分たちの一番近い将来像を感じることができたと思っております。また、集団で何かを実施する過程で、いろんな考えがあることに気づいたり、周りの人と協力して解決することを経験することは、「豊かな心」を身につける上で大変重要だと思いました。トークフォークダンスの最後に、ある生徒が、今回聞いてもらえてよかったって言っていました。中学3年生だったんですけど、自分の親にはなかなか言えないことでも、大学生に聞いてもらえてすごくよかったみたいです。逆に私たち保護者、親にとっても、中学3年生が何を考えているのか、自分の子どもに聞くことはできなくても、子どもの同級生の話を聞いて感じとることができるので、とてもいいことだと思いました。本当にこれは、ずっと続けてほしいと思っております。

以上です。

市長：ありがとうございます。そうですね、学力だけでなく豊かな心を、トークフォークダンスのような世代を超えたコミュニケーションを通じて育てていくという取り組みの御紹介をしていただきました。私もトークフォークダンスには参加させていただきました。今年はインフルエンザで一旦中止になっておりましたが、子ども達や先生達の熱い要望があり、トークフォークダンスが実現されました。熊本の方達にも、取り組まれている被災地の復興についてのお話をさせていただき、すごく勉強になりました。

それでは、ほかの教育委員さん、いかがでありますでしょうか。

では、半澤委員、お願いします。

半澤委員：半澤です。今も藤井委員からお話がありましたが、子どもたちが、いろいろな人と関わったり、さまざまな体験をする機会を持つことは重要だと思います。学校の中でほかの学年との交流や、幼稚園、小学校、中学校同士の交流、また、高校生や大学生、地域の方と関わる機会なども大事だと思います。外国語活動、そして外国語の授業などで他国の文化を知ることにも非常に大切だと考

えます。つい先日、福岡東中学校で福岡教育大学の韓国学生交流事業が行われ、私も参加させていただきました。福岡教育大学の学生が8名、福岡教育大学が協定を結んでいる韓国の大学生が8名、韓国の教授が1名来られまして、英語の授業に参加してグループに分かれて自己紹介などを行い、2名ずつ各クラスで一緒に給食を食べたりしていました。また、図書室で韓国の昔ながらの遊びユンノリの紹介をされたりと、とても学生たちもにぎわって楽しそうに参加しておりました。その間は、英語で意思の疎通を皆さんしていたんですけども、ただ、英語を学ぶのではなく、このような具体的な経験が、英語を学んで他国の人々と交流をしてみたいという一つの目標になり、英語の学習の励みになると感じました。今年度から市にも国際交流係ができたと聞いております。文化の交流は大人も子どもも新しい経験となることが多いと思いますが、ほかの文化を学ぶ機会について、市ではどのような例があるのか、また、今後はどのような計画があるのでしょうか。

市長：福岡東中学校での取り組みの御紹介をいただきまして、今後どのような計画が市にはあるのでしょうかという質問がありました。国際交流係は、冒頭で申しましたように、今年から郷育推進課に持ってきておりますので、郷育推進課の八尋課長、お願いします。

郷育推進課長：郷育推進課の八尋です。よろしくお願いします。

今、国際交流の関連のお話が御紹介、それから御質問等ありましたので、現状を少しお話しさせていただこうと思います。今年の4月から国際交流係の係員2名を配置して様々な事業に取り組んでいます。取り組んでおります主なものを申し上げますと、一つは、ちょうど本日なのですが、アジア太平洋こども会議についてです。これは福岡市役所の中に事務局があるのですが、アジア太平洋こども会議の子どもたちが福岡に訪れるということです。福津市も10年ぐらい前はこの取り組みしていたのですが、しばらく絶えておまして、今年の4月から復活するような形を取っております。まさに本日、ウエルカムパーティーということで、クック諸島から4名の子どもたちと、引率が1名、合計5名が来られます。今日から約1週間、福津市の5軒の御家庭が家へ迎え入れをされます。明日から学校登校を3日間ほどして、土日をそれぞれの御家族とお別れパーティー等々過ごされて、来週月曜日に帰路につかれるという予定で、子どもたちは交流をされます。この事業は、様々なメリットがあります。先ほど、半澤委員がおっしゃっていた語学力の向上という部分ですね。1週間交流することはもちろんなのですが、この事業の後に子どもたちが英語でメールのやりとりをしたりというような、その後の継続的な交流もあります。そこでは世界に目を向けようとする気持ちが芽生えますし、そ

のために英語を学ぼうというきっかけにもなります。各家庭がそれぞれウェルカム体制の良いムードで、この事業は進んでおるところがまず一つです。

それから、先ほどお話も出ておりますオリンピックの関係ですけれども、現在はルーマニアの柔道（男女）チームの誘致に取り組んでいます。福津市と古賀市の共同で行っております。メリットとしては、ほかのいろんな種目・競技に比べて、割と経費がかかりにくいという点があります。今の状況としましては、こちらから来てくださいという思いは精いっぱい先方に伝えております。先週も市長にお願いし、古賀市長と一緒にルーマニア大使館のほうにも、熱い気持ちを伝えていただいております。私自身も先月、総監督をされている方のもとに名古屋まで行きまして、福津市と古賀市の提案書を持って、福津市、古賀市にぜひ来てくださいという気持ちを伝えさせていただいたところでございます。答えは7月中にはいただけると思います。

他に国際交流係で取り組んでおります事業としましては、民間の方々の取り組みの側面支援という形ですけれども、例えば、韓国慶州との交流ですね。これは長年にわたって行ったり来たりという形で、使節団という形で慶州市との交流をされてらっしゃる団体が福津にございます。側面支援ですので、来られたときに御案内のバスを提供する等の支援ではございますが、できるだけ市の職員とともににかかわる中で、文化交流を進めたいというように思っております。

また中国語の取り組みを中心にした中国との交流ですとか、その他にも、スペインとの交流ですね。昔、在福岡スペイン国名誉領事館が福津市にございましたので、その関係で始まりました。福津市としましては、福岡市に本拠地がある福岡スペイン友好協会と密接にかかわらせていただいております。市長もその名誉顧問という役職にもついていただいておりますので、交流を続けさせていただいておるところでございます。

後は、日本語教室わかばというボランティア団体がございます。日本語がまだ十分でない外国から日本に来られた子ども達やその保護者に対して、支援をしてくださっております。わかばさんとはいろいろ話をしておりまして、困ってらっしゃることなどを聞かせていただいております。福津市のため、あるいは、その外国から来られた子ども達のためを思っていていただいておりますので、今後もそのお力を十分に借りられるような環境をつくっていきたいと考えております。

郷育推進課としましては、現在2本の計画を作っている段階であります。一つは、福津市生涯学習推進計画です。もう一つは、福津市スポーツ推進計画、どちらも今年度中に策定する予定でございます。生涯学習とスポーツという2本ですけれども、

国際交流の感覚を十分に織り込みたいと思いますし、どうすれば福津から力強い子ども達が育っていくのかと、いろんな方面からの知恵を借りながら、今懸命につくっている段階です。これから先、多方面からいろんな声を聞きながら計画書として固めていく中で、この地域を担う人財をどのように育成するのかという福津市としての方向性も示していきたいと考えているところでございます。

以上です。

市長：ありがとうございました。

今、課長のほうから現在の取り組み等を説明いただきましたので、また後で、今のことも含めまして御意見等ございましたらいただきたいと思います。今、お二人の委員様から見解を御説明いただきましたので、そのほかの委員様ございますか。

青木委員、お願いします。

青木委員：青木です。よろしくお願いします。

今、課長のほうから報告がありましたが、国際交流やボランティアというところは、今後も市や学校、地域で支えあって取り組みが深まっていけばいいなと思いました。それは、人づくりといいますか、やはりハード面ではなく、ソフト面の心の育成に大きくつながっていくだろうと思います。先日、広報誌のふくつのほうに原崎市長のコメントで福津市が住みよいまち、九州ナンバーワンで、全国でも12位になったということが書かれていました。市民としては本当にうれしいことなんですけども、住みよいまちから住みたいまちへ変わるためには何が必要かを考える必要があると思います。もちろんまちのハード面の整備も大切だと思いますけど、ソフト面と言いますか、心の面で市民が良さを感じた時に住みたいまちナンバーワンになれると思います。この予測困難な社会を生き抜く、それから、地域を担う人財をどのように育成するかっていうのは、私が教育委員になった4年前からずっと言っていることなんですけども、やはり次世代の社会を担っていく子ども達を育ててくださっているのは学校の先生方であり、その先生方の心の余裕が、この4年間でますますなくなっているように思います。人口が増え、学校の設備の投資というのに相当費用がかかっているというのはもう十分わかっているのですが、心の面の充実のための手だても考えてほしいと思います。科学では人間の心の有無というのは推しはかれないところがたくさんあると思いますが、先生たちを取り巻く環境というのも、大きく変化してきています。私が独自に行った居酒屋さんの調査では、先生方の飲み会が極端に減ってきているみたいです。昔は、東郷や福岡のまちは教員のチームが飲みながら歩いている姿はよく見られたようですが、このごろ、学校の先生がお酒飲んでいる姿っていうのは全く見ないような感じになっていますよね。教員同士のコ

コミュニティーというのが、だんだんはがされてきて、相談する相手が減り、ますます心に余裕がなくなっているのではないかと思います。生徒達に対する環境の変化に対応して、取り組みをすればするほど、時間がどんどん取られてしまいます。やっぱりボランティアにしても国際交流とかにしても、市とか地域が主導権を握ってやることで、先生たちの心のゆとりが出てくると思います。教員やそこに携わる人たちのソフト面の補充というか、そういうのはやはり強く求めたいなというように思います。

市長：なるほどですね。福津市は、今や昨年に続いて住みよさランキング、九州ナンバーワンで、全国のランキングは35位から12位と、九州管内では断トツの評価なんですね。特に快適度なるものは人口増加率の影響もあり、全国で2位です。住みたいまち、住んでよかったというまちをこれからも継続して福津市が進めて、推進していくためには、心の豊かさが大切であるとおっしゃっていただきました。その一つの例といたしまして、この教育の分野で先生方の仕事量がふえ、余裕がなくなっている、先生同士の交流の機会も少なくなっているという現状がありますので何か補えないかという意見でした。

福津市は今年、全小中学校に、地域と学校とのつなぎ役になってもらう地域学校協働活動推進委員、いわゆる地域コーディネーターを配置いたしました。地域の中の学校から、学校を核とした地域を目指す状況があります。しかし、いざ本当に学校を核とした地域となりましたら、ますます学校の先生方は、この地域も含めたものを学校で担わなきゃいけないのかという危機感ももしかしたらあるかもしれません。そういう中での一つの青木委員さんからの提案でございました。ありがとうございます。

それでは、下山委員いかがでしょう。お願いします。

下山委員：私は以前教員をしており、特に津屋崎中学校では8年間お世話になりました。そこでの卒業生達がもう30歳後半になってきて、よくその卒業生たちと会う機会があります。一旦は就職、結婚で地元から離れていくのですが、生活するなら地元に戻って生活したい、という卒業生たちがふえてきたような気がします。Uターンという形で、地元に戻ってくる中で、御主人とか子どもを連れて女性も帰ってきているという話を聞きます。理由を聞くと、やはり先ほども出ていますように、総合的に考えてここに住みたいという思いがあるみたいです。自然環境が良く、子育てには本当に適していると感じ、一旦外に出たことで、ふるさとのよさを改めて知るみたいです。福津に住むために御主人の職を変えたり、転勤をお願いして帰ってくるということもあるみたいです。自然だけではなくて、人とのつながりの中でも住みやすいということです。そういった地元愛がすごく多く感じられるような話をして

くれました。その子たちは小学校、中学校を経験する中で、体験を通して住みやすい、住みたいという思いが芽生えたのかなと思います。そこで、学校が主体となる体験活動もあるとは思いますが、時間も取れず、余裕がないというようなことから考えたら、やはり市が率先して何か企てることも必要だと思います。そういう意味では、国際交流というのが一つのスタートになりそうな気がします。体験活動の中でも、トークフォークダンスの子どもたちの姿を見たときに、私は感動いたしました。先輩たちがしていて、楽しみにいていたトークフォークダンスができないとなったときに、どうしてもしたいという思いから、生徒会の人達を中心にあって、実行委員会を立ち上げた。そういう主体的な活動が、いろんな体験を集結した形で出てきたような気がします。学校の中だけでしかその体験ができないのはもったいないと思います。例えば、中学校だったら、福津市内に3校ありますので、3校の交流的体験生徒会活動とかを市のほうで、仕組むことができたらいいなと思います。宗像市では、各中学校から、一人二人出席して、何か講座みたいなものがされており、いろんな方がそこに講師として来られるみたいです。1年間を通して学びの場があるし、他校の生徒との交流の中で自分のこれからの進路設定や、学校生活の中で自分に何ができるのかを考える機会になるみたいです。ですから、市や郷づくりの中からそういった企画も生まれてくれば、すごく地元と密接な活動を体験できるようになると思います。そういった体験や、身近な先輩と話をする環境を整えることはとても大切だと思います。中学校の子ども達は高校や就職等の進路選択という、初めての自己決定の場に直面します。そういったところで先輩である地元の高校生たちの話を聞いてみる。身近な先輩の具体的な話を聞く中で、自分のこれからの道筋も少しは見えやすくなると思います。さらには、商工会の30代、40代の方々の出前授業では、働く世代の経験談、体験談をもとにした道筋がまた見えてくるでしょう。そしてやはり、50代、60代のいろんな体験をした人たちが、今、どういう思いで生活しているかもまた新たな学びになると思います。年代を沿っていくような体験の組織化ができれば、自分が一生ここ福津市で暮らすためにという道しるべが見えてくると思います。そういった企画が、いろんな形で出てきたらありがたいな思います。

市長：どうもありがとうございました。

そうですね、中学生から見たら高校生、仕事をされている30代・40代の世代、また50代・60代の方々、こういった順を追った世代との交流が大切だと。行政としても組織化されるような、取り組みや施策が必要ではないかということでした。前段では、これまでの福津市が行ってまいりました、教育の成果として、Uターン、Iターンがふえて、福津で本当に子どもを育てたい、住みたい、戻ってきたいという方がふえてき

ているのを実感しているということを紹介いただきました。その一環がですね、行政主体の施策ではありませんけども、この福岡中学校から始まったトークフォークダンスであったと僕は思います。今下山委員が言われたように、高校生との交流も本当に大事で、高校生にも市の施策に絡んでいただきたいというのを、総合計画を策定したりする中で、よくお話に出てまいります。

宗像市の取り組みを一つ御紹介いただきましたが、他にも、宗像市と福津市で大きく違うのを御紹介いたしますと、成人式の運営ですね。福津市の場合はまさにその当事者、20歳になる5年前に中学校を卒業した子達を中心になって実行委員会形式で成人式を運営しています。宗像市では30代、40代の世代が運営するんですよね。10歳上、15歳上の先輩方が、「あなた達も今日から成人です。」といった感じで、ある意味きりっとした成人式を行うのが宗像市の方針であります。それぞれ、長所と短所があると思いますが、子ども達が本当にいろんな世代の方と順を追って刺激を受ける、そして成長する、そういったプログラムを行政として行っていく必要があると思います。教育大綱、また今策定中の教育総合計画は、本市の場合は子ども達だけでなく、生涯教育計画に一応なっております。多世代交流というのを、教育振興計画の中にも、より具体的な施策として実現することが必要だと思います。

教育長はどのようにお考えでしょうか。

柴田教育長：そうですね、本日の協議が、「次世代を見通した地域の将来を担う人財育成」ということで、予測困難な社会を生き抜くために、あるいは地域を担う人財をどのように育成していくかというのがテーマですから、やはり教育の力がものすごく大きいと思います。子どもたちが教育を受ける場面というのは大きく学校と、家庭を含めた地域社会との2場面があります。その子どもの育成あるいは教育に、大人がどうかかわっていくかの環境づくりが一つのテーマだと思っております。学校教育では、青木委員がおっしゃっていたように、教師に余裕がないというのがあります。私も以前教師をしていたわけですけど、時間の使い方等個人的なテクニックもあると思いますが、余裕がないという裏腹には、私は勉強不足があると思います。教師がしっかり自分で学ぶ、自分で自分を育てようという自育力があれば、余裕が出てくると思うんですよね。だからこれについては、これから教育委員会の学校に対するアプローチの問題かなというふうに思っています。教師の育成としては特に、OJTよりも、Off-JTで学ぶ場面をいかにつくり出し切るかが大事だと思います。さっき居酒屋のデータを青木委員がおっしゃっていましたが、まさにOff-JTの機会がないということですかね。それが一つかなと思っています。子ども達に活動させるというのは、教室に閉じ込めて、座学

の学習をするっていうのも基礎・基本をつける面で大事だと思います。しかし、学校でも独自で考えてほしいんですけども、社会に目を向けるような学習の機会をつくってほしいと思います。修学旅行や職場体験等も社会に目を向ける学習の一環ではあると思いますが、地域の人材を学校に招いて勉強する取組や、逆に子ども達が社会に出て、地域行事だとか地域活動に積極的にかかわる場面やボランティアの機会もつくってほしいと思います。それから、自分の将来の生き方を考える学習の機会もつくってほしいですね。

それから、小学校では厳しいかなと思いますが、中学校は3つしか学校がないので、3つの学校が何か交流する場面というのは、積極的にしてほしいですね。例えば、生徒会でリーダー研修会を1回合同でやるとか、体育祭等の大きな行事の前にその学校の実行委員とかリーダーを集めて、考えさせる場面だとかですね。その中で、そういう活動に大人がどうかかわっていくかっていうのが大事かなと思います。手法としてはいろいろ考えられるんじゃないかなと思います。

後は、郷育推進課が担っております生涯学習の場面では、郷育カレッジの取り組みがありますが、そこで中高生を対象にした授業を考えるとおもしろいかなと思います。福津に住んでいる中高生を対象に、何か社会教育の場面での授業を企画すると、地域へのかかわりや、地域への愛着だとか、そういうのも育まれるのかなと思います。

要は、教育というのは、手法・手段いっぱいあるわけですから、我々大人が知恵を絞って、アイデアや独創力を展開して、実践に結びつけていくというようなことができたかなとは思っています。

明日、市の校長会もありますので伝えようかなと思います。今年中には難しいかもしれないので来年に向けて、そういう福津ならではの学校教育のスタイルを考え、社会力をつけられるような教育活動をやってほしいかなと思っています。

やはり、教育というのはですね、変化と改革と新しい道を求める姿勢というのが大事なんですよね。それが今少し、停滞しているかなと感じはしますね。

市長：はい、そうですね。変化と改革、挑戦ですね。本当に貴重な御提言だと思いました。

想像力や主体性や企画力や、そういうものを子ども達で考えて発揮してもらうように、大人の知恵を出し合うということが大切だということですかね。

柴田教育長：そうです。大人が支えるといいますか、ヒントを与えるということですね。子どもだけでは限界があると私は思いますので。

市長：変化、改革、チャレンジ、こういったことは教える側ももっていないと、形骸化したり形式化したりしてしまうとも思います。

す。本市は人口が急増していまして6万4,000人のまちです。中学校が3つありまして、校長先生を中心にそれぞれの学校の地域の特色を生かした学校運営並びにプログラムを組んでいます。それぞれに歴史がございますけども、3つの中学校が1つになって、福津ならではの取り組みをはじめても良いと思います。それぞれの中学校に違いがありますので、そのユニークさも重要にしてほしいと思います。交流なり対抗なり、やはりライバル意識などをもって取り組むのも必要かもしれません。成人式するとき、この3つの中学校からそれぞれ代表が出て、実行委員会として取り組むのですが、中学生のころから連携して取り組むといった働きかけを市のほうでしていきたいと思っています。

では、教育委員さん、感想等言い足りなかったこと、御提言などありましたら、改めてお願いします。

藤井委員：子どもの育成に、大人がどうかかわっていくかと言われていましたが、学校・家庭・地域の3者とも大切だと感じました。教師の皆さんは、もちろん子どもたちを教育されていますが、家庭の中でも、私たち保護者がしっかりと向き合っていないといけないと思いました。また、福津市は地域とのかかわりがすごく深いので、地域のスタッフの皆さんや見守り隊の皆さんが見守ってくださるのが、とてもありがたいです。今回も校区を回ることがありましたけど、自分たちも地域を知り、地域を知ってこそ防災につなげることができると感じました。そういう面でも深く地域のほうにも関わっていきたいと思いました。

以上です。

市長：そうですね。ありがとうございました。

それでは次に半澤委員さんご感想をどうぞ。

半澤委員さんは韓国学生との交流のことを紹介されましたけど、そもそも民間交流である慶州の交流にも関わっていらっしゃるのですか。

半澤委員：今、市長の触れられた慶州との交流についてですが、私は福津慶州交流会に、もう6年ぐらい入らせていただいております。今年の6月に、慶州のほうに行ってきました。

変化と改革とチャレンジと、先ほど教育長がおっしゃっていましたが、やはり子どもの一番身近な存在とは、保護者ですので、子どものお手本になるような、新しいことにチャレンジをするべきだと思います。それが生涯学習だと思いますが、その気持ちを忘れずにチャレンジし続ける姿を子どもに家で見せていくことも、私たち親の役割だなと感じました。福津の取り組まれる生涯学習と生涯スポーツに、私たちの世代も積極的に取り組んで、参加させていただけたらなと思いました。

市長：どうもありがとうございました。

それではですね、次に青木委員さんお願いします。

青木委員：クック諸島からのホームステイの取り組みのお話をされていましたが、以前もそういう外国からの交流会というのがあったと思います。そういうのは、子どもたちの視野を広げていくという一つの重要な取り組みだと思っています。私達は、東北地震の後、毎年夏休みに子ども達を福岡に呼んで、1週間ぐらい預かるというのをボランティアでしていました。最初は50人ぐらいだったのですが、今はそれがどんどん広がって、300人から400人ぐらいになっています。今度も西日本の災害で、被災した子ども達もたくさんいると思うので、福岡の子ども達やその親に協力してもらい、ボランティア活動をできたらいいと思います。そういう外部の交流をもっともっと広げていくことで、子どもたちと親の視野を広げていけるような取り組みがなされたらいいかなというふうに思いました。

市長：300人から400人はどの辺の子ども達ですか。

青木委員：福島、岩手、宮城県の子どもたちです。ほとんどお寺なんですけど、福岡県だけではなく熊本県や大分県等、九州全部で取り組み、毎年ずっと続けてやっています。

市長：そうなのですね。どうもありがとうございました。

下山委員も御感想お願いいたします。

下山委員：先ほどの内容とは別角度から話させていただきます。私は少年サッカーのコーチや審判をさせていただいて、感じることもあるんですけど、子どもたちと一緒に大人も成長しているなと思うんですよね。子どもに大人がついてこられることが多くありますが、福津市では様々なスポーツが盛んに行われており、少年サッカーにしろ、ミニバスケットにしろ、それから、少年野球にしろ、大人は子どもと一緒になら、いろんなものに携わってくれるんです。その部分を郷づくりのほうと何か関連づけることができないかなと思うことがあります。郷づくりの中でも、お年寄りしか活動してない所があるような気がします。やはり、若い世代が郷づくりの中に入ってこない、継続が難しくなると私は思います。郷づくりの組織の中に子どもが活動するような組織をつくることで、保護者が関わるようになり、若い世代の大人の方がより参加してくれると思います。郷づくりの活性化のためにできることは他にもあると思いますが、そういったものが考える一つの手段になると思います。

市長：そうですね。ありがとうございます。

本日のテーマは、「地域の将来を担う人財育成」でした。子どもたちが、いろんな世代と交流するために、少し視点を変えて下山委員からおっしゃっていただきました。例えば、子どもがヨットをする場合、ヨットは大変なので親もついてきますよね。子どものスポーツ・活動に大人は関わり、それを通して大人も成長します。そういったコミュニティーができますよね。一方で郷づくりに関しましても、持続可能な郷づくりにしてい

くためには、若い方の参加が必要不可欠になってまいります。子どもに郷づくりのシステム・組織に関わらせ、また若い世代の大人も子どもを通して関わられるようにしていきたいという御提案でありました。現在一方で、総合計画をつくっておりますが、そこでもその辺の所をどのようにしようかということを考えているところでございます。

松田副市長からも、御感想・御意見をいただきたいと思います。

副市長：委員の皆様、どうもありがとうございます。今回の話の中に出てきたように、予測困難な社会についてですが、これはグローバルなビジネスの世界では、VUCA（ブーカ）と言われていきます。不安定で不確実で複雑で曖昧な社会だという意味です。その中で、どのように生きていくかを考えるときに、大人がどう関わるかが大事だと本日も皆様言われていました。私も中学生や高校生や大学生と話す中で、「いろんなことやりたいんだけど、一番のネックは親なんです。」とよく聞きます。どうしても、不安定、不確実、複雑と逆で、安定な方向や、確実な方向にと、全部そうやって親が固めていってるんですよね。だから、私たち大人がそれを外していく必要があると、本日改めて感じました。そういう意味で、半澤委員もおっしゃったように、大人がチャレンジする、そういう社会をつくっていくという意味での、生涯学習計画はすごく大事です。また、先ほど青木委員がおっしゃったように、いろんな異なる環境にある人たちがかわるという意味では、国際交流だけではなくて、異文化交流と言いますか、国際交流や異文化交流は楽しいだけではないんですよね。子ども達は結構つらい思いをしたり、チャレンジをしないといけないので、そういうことも前提とした豊かな体験の場、しかも親子がかかわれるような体験の場をつくるということは、今後の施策としては有効だと感じました。最後に、若い世代に郷づくりや、持続可能なまちづくりに関わってもらうときに、今どこの自治体でも一番抜けているのが高校生なんですよ。中学校までは学校で関わる機会があるのですが、高校生になると、地域からも学校からも離れてしまいます。教育大綱の中にも、この高校生のところは、幾つか施策の方向性が示されています。地域人として大学生になっていくという手前のところですので、まちづくりの活動に関わる等、知識を学ぶのではなく、高校生がこのまちの課題を、自分たちで解決していく。小学生や中学生もそういうチャレンジを福津に住んでいる高校生たちと一緒にできると、その姿を見て育っていきますので、すごく楽しみだなというように感じました。

本日いろんな御意見があり、具体化しそうな気がして、大変わくわくしています。ありがとうございました。

市長：そうですね、ありがとうございました。本日の会議で、皆様か

ら出された意見や御提言が、本市の教育の柱となります。今後の基本構想なり、実施計画に、つながっていくようにしていかなければならないと思っています。本日は、具体的な御提言を教育委員の皆様からいただき、また私も考えを述べさせていただきましたので、これをまた、次の第2回の総合教育会議までの間に、教育委員会と執行部局のほうで調整いたしまして、第2回の総合教育会議の場でお諮り、協議させていただければと思います。

本日は本当にありがとうございました。終わらせていただきます。

4 その他

堀田：ありがとうございます。

それでは、次の総合教育会議の予定でございますが、10月23日（火）を予定しております。場所も同じくこの場所で開催したいと考えております。次回の内容等詳細が決まりましたら、改めて御案内をいたしますので、よろしくお願いいたします。

5 閉会の宣言

堀田：以上をもちまして、平成30年度第1回総合教育会議を終了させていただきますと思います。

本日は、熱心な御意見の交換、どうもありがとうございました。